

令和6年度 自己評価

2025年12月

学校法人石神学園 印西ひかりこども園

評価責任者 園長 押部直也

評価については以下のような基準で評価に番号を記入した。

5：とてもそう思う 4：そう思う 3：どちらともいえない 2：思わない 1：全く思わない

1. 人権の尊重

子どもの人権条約の遵守、ならびに子どもの最善の利益を追求する。

小分類	職員 評価	保護者及び 関係者評価	外部 評価	評価の根拠、 具体的事例及び改善方法
(1) 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	4.7	5.0	5.0	一人ひとりの人格を尊重していくことの必要性を職員間で共通の意識をもち取り組んでいる。
(2) 性差への先入観による固定的な観念や役割分業を植え付けないように配慮している。	4.7	5.0	5.0	性差への先入観を植えつける行為、言葉がけをしない等偏見を持たせないよう十分配慮し保育にあたっている。

2. 説明責任

保護者や地域の子育て家庭に、こども園の役割や保育内容について情報提供をする。

小分類	職員 評価	保護者及び 関係者評価	外部 評価	評価の根拠、 具体的事例及び改善方法
(1) 理念や基本方針が利用者に周知されている。	3.0	5.0	5.0	保育理念や保育内容をより可視化できるよう、職員間で検討していく。
(2) 保護者が意見を述べやすい体制が確保されている。	4.3	4.5	4.0	保護者が気軽に会話ができるような配慮が今後も継続的に必要である。

3. 苦情処理

保護者からの信頼を高め、保育提供の質の向上に向けた取り組みの一環として、保護者からの苦情や意見等に対して、迅速に対応を進める。

小分類	職員 評価	保護者及び 関係者評価	外部 評価	評価の根拠、 具体的事例及び改善方法
(1) 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し迅速に対応している。	3.7			保護者からの意見、要望等を情報共有し、問題の原因、見直し、解決（対処）方法を明確にすることに努めなくてはならない。
(2) 苦情解決の仕組みが確立され、十分に周知、機能されている。	4.0			苦情解決の仕組みを周知している。保育士のみで問題を抱えるのではなく管理職が介入して対応することに努めている。

4. 保育内容

一人ひとりの子どもの置かれている状態及び家庭、地域社会における生活の実態を把握するとともに子どもを温かく受容し、適切な保護を行い、子どもが安心感と信頼感をもって活動できるようにする。

小分類	職員 評価	保護者及び 関係者評価	外部 評価	評価の根拠、 具体的事例及び改善方法
(1) 保育計画が保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向などを考慮して作成されている。	3.7			保育計画(全体的な計画)を保育内容に反映し、子ども一人ひとりの育ちを保障できるように努める必要がある。
(2) 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき指導計画を改定している。	3.0			日々の業務に追われ、振り返りが疎かになる場合がある。日々の業務の計画性を持ち保育にあたることに努めなければならない。
(3) 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。	4.3	5.0	5.0	一人ひとりの理解に努めようとする姿勢(行動)を継続していく。
(4) 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	4.0	5.0	5.0	環境構成の検証に十分な時間を確保する必要がある。
(5) 基本的な生活習慣や生理的現象に関しては一人ひとりの子どもの状況に対応している。	4.7	5.0	5.0	子どもの要求に応じて、応答的に寄り添うことの意識は高い。
(6) 身近な自然や社会と関われるような取り組みがなされている。	4.0	5.0	5.0	野菜の栽培などを取り入れている。より自然体験が身近にできる環境を検討していく。
(7) 様々な表現活動が体験できるように配慮されている。	3.3	4.5	5.0	玩具の適正や絵画(描画や制作)、年齢に応じた表現活動ができる環境設定の工夫が必要。
(8) 遊びや生活を通じて、人間関係が育つよう配慮している。	4.0	4.5	5.0	生活の中でできる限り子ども達で考え、主体的に取り組めるよう配慮している。
(9) 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	3.3			早朝や夕方の連携や担当者の子どもの理解等がより必要である。組織的な体制づくりを検討していく。

5. 要保護児童、特別な支援を要する子どもへの対応

インクルージョンを基本に保護者や職員間で共通の認識を持ち、巡回発達相談や専門の機関と連携しながら子どもの発達を保障する。

小分類	職員 評価	保護者及び 関係者評価	外部 評価	評価の根拠、 具体的事例及び改善方法
(1) 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに園長に届くようになっている。	4.7			虐待や類似ケースについては迅速に対応し、共有するよう努めている。
(2) 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について市関係機関、児童相談所等に通告、照合する体制が整っている。	4.7			園のみで対応せず行政関係機関と積極的に連携関係を築いている。
(3) 環境が整備され、保育内容や方法に配慮がみられる。	3.7			市の巡回相談等を実施し、専門家からの具体的な支援を受けて、保育に活かしていくように努める。

6. 子育て支援

保護者との信頼関係を築き、子どもの最善の利益を考慮した保育ができるよう、育児相談や懇談会、家庭連絡を充実する。また、多様な子育てニーズや地域住民が求める援助を把握し、それに基づいた事業・取り組みを実施する。

小分類	職員 評価	保護者及び 関係者評価	外部 評価	評価の根拠、 具体的事例及び改善方法
(1) 地域の福祉ニーズを把握している。	2.7	5.0	4.0	地域の福祉ニーズの理解把握に努め、園で行える事業などを検討していく必要がある。
(2) 地域の福祉ニーズに基づく事業・取り組みが行われている。	3.0	5.0	4.0	福祉ニーズに応じた支援活動を考え、取り組んでいくことが望まれる。
(3) 一人ひとりの保護者との情報交換に加え、個別面談を行っている。子どもの発達や育児等について保護者との共通理解を得る機会を設けている。	4.7	5.0	5.0	保護者との個人面談を定期的に行っている。配慮が必要とされる家庭、児童については個別に相談を実施している。
(4) 家庭状況や保護者との情報交換の内容など必要に応じて記録されている。	3.7			配慮、支援が必要な事項については記録に残すと共に会議等で職員が共有できるよう努めている。

7. 健康支援・衛生管理

子どもの健康状態、発達状態を把握する。感染症、疾病への対応を適切に行い、保護者、職員にその対応、予防を周知する。必要に応じて関係機関を含めた情報を共有する。また、施設的环境を常に適切な状態に保持するとともに施設内外の設備、用具などの衛生管理に努める。

小分類	職員 評価	保護者及び 関係者評価	外部 評価	評価の根拠、 具体的事例及び改善方法
(1) アレルギー対応や嘔吐物の処理マニュアルを作成し、子ども一人ひとりの健康状態に対応している。	5.0			各マニュアルを作成し、日々の健康については看護師を中心に記録をとり、一人ひとりの健康把握に努めている。
(2) 健康診断の結果について、保護者や職員に周知し保育に反映させている。	3.7	4.5		年2回の内科健診、1回の歯科健診を実施し、異常があった場合は保護者に通知している。
(3) 感染症発生時に発生状況を保護者に周知している。	4.7	4.5	5.0	感染症が発生した場合は保護者に周知し啓発している。日々感染症についての情報を収集し、感染拡大防止に努めている。
(4) 整理整頓や安全管理等、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	3.7	5.0	5.0	保育室の環境整備は、整理整頓などが十分でない保育室もある。環境美化への意識に努めた、日々の取り組みの継続が必要。
(5) 食物アレルギーは個別に配慮して提供している。	5.0			生活指導表の提出を依頼し、具体的な給食の提供方法などを保護者との面談を通して共有している。

8. 安全対策、事故防止

災害等に備え、日常点検や避難訓練を実施するとともに不審者の侵入防止のための訓練を行い、不測の事態に備える。事故防止のため内外の安全点検に努め、職場の共通理解や体制づくりを図る。

小分類	職員 評価	保護者及び 関係者評価	外部 評価	評価の根拠、 具体的事例及び改善方法
(1) 危機管理のマニュアルが作成され、定期的な訓練を実施し災害時の対応を意識した取り組みを行う。	4.0	4.5	5.0	法令で定められた訓練を実施しているが、危機管理マニュアルの共有や役割分担の把握に努める。
(2) 安全管理チェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている。	4.3	5.0	5.0	安全管理チェックリストを作成し、毎月確認している。個々の安全への意識の向上に努める。

9. 研修計画

保育の質向上のために目標を定め、組織として目的意識をもった研修計画を策定し取り組み実施する。

小分類	職員 評価	保護者及び 関係者評価	外部 評価	評価の根拠、 具体的事例及び改善方法
(1) 個別の職員に対して組織としての教育、研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	2.0	/	/	それぞれのキャリアに応じた研修の計画や取り組みを工夫していくことが必要である。
(2) 定期的に個別の教育、研修計画の評価、見直しを行っている。	2.0	/	/	職員間で研修報告をする等、積極的な研修の振り返り、保育への反映が必要である。

10. 小学校との連携・地域との交流

子どもの連続的な発達などを考慮して、互いの理解を深めるようにするとともに、子どもが就学に期待感を持ち積極性を持って生活できるようにする。また、地域社会の一員としての社会的役割を果たすと共に、地域の協力の中で子どもが育つような取り組みを行う。

小分類	職員 評価	保護者及び 関係者評価	外部 評価	評価の根拠、 具体的事例及び改善方法
(1) 小学校との連携、話し合い、就学への引継ぎ等の連携体制が整備されている。授業参観（保育参観）など交流を行っている。	3.0	/	/	小学校との連携については、市のネットワーク部会等で近隣の小学校と連携を図り、計画を立てて交流を実施している。より双方のニーズに応じた連携に努める。
(2) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。	2.3	4.5	5.0	地域福祉が向上するための市の会議等には積極的に参加しているが、具体的な取り組みが求められる。

自己評価 総評

- 理念や要領に沿った保育を行うよう、意識して実行できているのではないかと感じるが、保育内容の工夫をさらに充実させ、より柔軟で創意ある保育を目指していきたい。
- 自己評価の内容を振り返ると共に、より質の高い保育を目指す。保育内容の意図が保護者や外部になかなか伝わらない部分もあるが、自園としての保育方法が少しでも伝わるよう取り組んでいきたい。
- 子どもの姿が多様化する中で不足を感じる場面もあり、保育の実情に合わせて個々の子どもに向き合いながら丁寧に保育を行い、より一層の改善に努めていく。職員一人ひとりの個性を大切にしながらも、保育を最優先に考え職員間での連携を取り、園全体の把握に努める。地域との交流も難しいところではあるが、今出来ることを考え取り組んでいけると良い。

自己評価 総評（続き）

- 今回の評価で地域との繋がり等の足りなさを感じた。地域のニーズの理解が職員全体でできていなかったり、小学校との連携をより深めていかなければならない。また、園内研修等をより増やしていくことで保育の改善に努めていかなければならない。今回の評価を今後にかかしていけるようにする。
- 子どもの人権を守るという面では、個々の関わりでは強く意識して取り組めたと思う。ただ、園としては意識の薄いところもあったと思われる。マネジメント、周知不足が目立つ場面もあったと考えられる。行事や普段の関わりについて「大切にしていきたいところ」を園のおたより(保護者はもちろん、職員に向けても)に載せて発信してきたが、理念や方針の周知に繋がっているのかということに関しては、努力を要すると感じる。
また、現時点で取り組みが足りないと思われる項目は「研修計画」「小学校との連携・地域との交流」の2つである。小学校との連携は架け橋プログラムでの最低限の関わりになってしまっていることが課題となる。ただ、連携に関しては、こちらから出向くばかりでなく、小学校側から園見学等にお越しいただき、生活や遊びを知っていただきたいのも正直なところである。引継ぎに関しても、双方の協力があってのことかと思う。地域との交流に関しては、取り組みが全くないわけではないが、遊びの中で様々な施設と結び付けていくことはできると考えられるので、そこは今後努力していきたい部分である。

保護者・関係者評価・所感等

- 園全体として、園児一人ひとりの気持ちに丁寧に向き合い、保護者にも寄り添ってくださる園だと感じています。子ども達の「やりたい」を尊重しながら、生きていく上で大切なことを日々伝えてくださっており、その姿勢は我が子を見ているとよく分かりますし、行事や先生方からのお手紙等からも伝わります。イレギュラーな事案や社会的な不安への対応も迅速で、安心して預けられます。園内外の環境整備や先生方の声かけも行き届いており信頼しています。
- 園内は常に清潔に保たれており、お迎えの際にも、気持ちよく園内へ入ることができる。職員の方から挨拶をして頂いたり、日中の様子を伺うことが出来る為、子どもに対しての愛情を感じ、しっかり見てもらっているのだと感じます。乳児～幼児まで、園内だけでなく近隣の公園や環境を活用して、保育をしてもらっている。

外部評価・所感等

- 日々の教育・保育の中で子どもの「なんで?」「どうして?」といった探究心に寄り添い自発的に遊びに向かう環境作りに力を入れていると感じています。その中で子どもがやってみたいことを深掘りし、興味関心を広げ、遊びの中での学びがあるよう、職員が意識をもって子どもと関わっています。子ども達が生き生きと遊ぶ姿が印象的です。またそのような教育・保育を保護者や地域とも共有し積極的に発信しているように感じます。今後も恵まれた環境を活かし、子どもの「生きる力」を育てて行かれることを期待しています。

記入者 園長：押部 直也